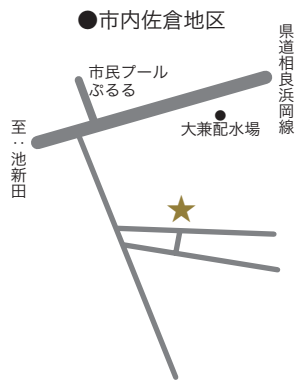




▼出土品：つぼ形土器



埋蔵文化財包蔵地 **大兼遺跡**

History

キラリを再発見

古墳時代の祭事遺跡

昭和40年1月に佐倉地区宮内在住の小川春男さんが、山林を開墾中に土器を発見したことから、その年の4月に静岡大学人文学部の内藤晃教授と市原壽文助教授の指導のもと発掘調査が開始されました。

調査の結果、幅1.7m前後、深さ20~60cm、長さ10m以上の溝状遺構が発見されました。その溝状遺構の中からは、古墳時代初頭(3世紀末~4世紀初頭)に頻繁にみられる底部に孔を意図的にあけた底部穿孔土器を含む、つぼ形土器が7個出土しました。

内藤教授によると「土器は一定間隔で据えられていた」とのことです。大兼遺跡は、溝の一部が見つまっているだけなので、詳しく調査しないと分かりませんが、底部穿孔土器を含むつぼ形土器のみが出土していることから、墓もしくは祭事に関連する遺跡と考えられます。

Atomic

暮らしと原子力

要請に応え国が全協へ説明

昨年10月の市と市議会からの要請に答え、11月30日、経済産業省資源エネルギー庁と原子力安全・保安院が本市へ説明に訪れました。

資源エネルギー庁からは「エネルギーを巡る議論の状況」が説明されました。国では、エネルギー・環境戦略の再構築に向け、

- ① 電力供給の5割を原子力発電に依存するとしてきた国の方針を白紙に戻す
- ② より安全性を高めて活用しながら、原子力発電の依存度を下げていく
- ③ 再生可能エネルギーの比率を高め、エネルギー需要構造を抜本的に改革する
- ④ 安全で安定的かつ効率的なエネルギー構造を再構築する工程を明確にする
- ⑤ エネルギーの不足や高騰などにより国民生活に支

障が生じないようにする
⑥ 現存する原子力発電所の安全確保や使用済み核燃料の処理問題などを総合的に検証する

これらの基本理念に基づき、新たなエネルギーシステムの実現を目指し、国民各層と対話を続けていくとしています。

原子力安全・保安院からは、現段階で、浜岡原子力発電所の緊急安全対策は、適切であり、安全確保の信頼性を高めるための中長期対策計画や重大事故への対策も講じられていると説明がありました。

また、平成21年8月に発生した駿河湾沖地震で、観測記録が他号機と比べ著しく大きかった5号機の耐震安全性も、安全上支障がないことが確認されました。